

大砂土東小学校 学校応援団だより

発行 大砂土東小学校 学校応援団事務局

公民館で学社連携～生活科の公共施設利用体験を例として

さいたま市立大砂土東公民館 館長 鶴見 道子

私が現在の職を拝命してから4年目になりますが、毎年10月中旬に、大砂土東小学校の2年生のみなさんが生活科の校外学習として当館にお見えになります。学校側の説明によりますと、2学期の指導計画の中に「みんなで行こうよ つかおうよ」という単元があり、身近な公共施設を利用し、施設を支える人々とかかわることをとおして、児童に安全に気を付けて正しく公共施設を利用しようとする意欲や態度等を醸成するために、学校から至近の当館を選ばれているとのこと。毎年事前に、2年生のみなさんから私あてに10問前後の質問が寄せられ、来館当日はレクホールにおいて私から質問に答える形で公民館の事業概要や利用に際しての基本的なマナー等をお話しています。どのお子さんもキラキラした目で私の話に集中し、新しいことを学ぶ喜びに満ちているように感じています。当館にとりましては、学社（学校教育と社会教育）連携の良い機会でもあり、また将来の利用者増を見据えた意味合いもあります。私自身、お子さんたちからいろいろなことに気付かされるとともに、職責の更なる遂行に向けた活力もいただいています。

今年は先月17日（金）に、2回に分けて計195名のお子さんたちと楽しいひとときを過ごすことができました。質問と私がお答えした内容について、いくつかお示します。

——公民館は何をすることでいいですか？

公民館は地域の人たちが集まって、生活に役立つ勉強をしたり、趣味を楽しんだり、会議をしたりするところです。子どもからお年寄りまで誰でも無料で利用できます。また、「大砂土東公民館ニュース」で地域の人たちにお知らせしているのですが、公民館が開く学習会（講座）というものがあり、昨年度は41講座に約3,200の方が参加されました。

——大砂土東公民館はいつ利用できるのですか？

公民館の休みは、12月29日から翌年の1月3日までと、毎月1回のお掃除の日です。それ以外の日はすべて利用できます。利用できる時間は、朝9時から夜9時30分までです。

——大砂土東公民館が行っている催しのうち、小学生が参加できる催しを教えてください。

今年度はすでに、4月に「ウォークラリー大会」、8月に「夏休み子ども公民館」を行いました。「夏休み子ども公民館」は4日間で、その内容はキッズクッキング、こわれのないシャボン玉作り、ヒップホップダンス、絵手紙でした。また、来年の3月には「あそびのフリーマーケット」を予定しています。ちなみに昨年度、公民館の催しに参加した小学生は260人でした。

——大砂土東公民館から小学生に伝えたいことはありますか？

おとなになって何かやりたいことがあったら、公民館に行ってみてください。趣味を充実させたり、仲間作りをしたりして、自分の住む地域を仲良く暮らせる街まちにしてください。



「公民館は無料で利用できます」とお答えしました。

地域の人々による2年生活科と4年音楽科の授業支援

学校地域連携コーディネーター 長沼 幸男

小職の職務の1つに「教育活動に地域の教育力を積極的に取り入れる」があり、これは杉山校長が学校経営において重点的に推進している「開かれた学校づくり」の具現化に資するものです。

【1】 2年生活科「もっとなかよし まちたんけん」について

2年生活科では2学期後半に、「もっとなかよし まちたんけん」という单元の中で、児童が4名前後の小グループを編成して学区内の公共施設、コンビニエンスストア、量販店、農園、個人商店等（以下 商店等）を見学し、質問をしたりして町の人々と交流を図る体験的活動を実施します。この交流をとおして、地域の人々の町への思いが分かるとともに、自分の住む町にはたくさんの良さがあることに気付く児童の育成を目指しています。今年度は計51のグループにそれぞれ保護者（ひまわりは担任教諭）が1～2名付き添って、先月29日（水）の午前中に実施しました。

見学をご承引くださった商店等は、次の28か所です（順不同）；大和田駅、見沼あかね保育園、大和田幼稚園、島村梨園、橘家、宇田川煎餅店、ピザハット、手打うどんさわいち、小川自転車店、さかえや文具店、花茂、ハスミカメラ（以上 大和田町）、大砂土中学校、福寿幼稚園、ジャパン、東京靴流通センター、サイクルステーション、石焼らーめん火山、くら寿司、とんでん、RingerHut、グルブリート、生鮮市場やさい村、セブンイレブン東大宮7丁目店（同 東大宮）、見沼区役所、大宮武道館、大宮東図書館、SSCあすも（同 堀崎町）――。

なお、実施に先立ち、9月中に第2学年の教諭が手分けして商店等に電話で見学受け入れの内諾をいただき、後日小職が内諾先一軒一軒を回って校長の見学依頼文を届けました。実施後は、グループごとに見学先にお礼状を作成し、小職がそれらを見学先の商店等に届けました。お礼状には、しっかりした字で「いろんなことが分かりました。長い時間ありがとうございました」「しつもんしたらすぐに答えてくれてありがとうございます」などと書かれていました。

【2】 4年音楽科「日本の春を感じ取ろう」について

4年音楽科では1学期に、「日本の春を感じ取ろう」という題材を3時間計画で扱います。本題材の目標は、「箏の演奏を味わって聴いたりするなどをとおして、歌い継がれてきた日本の歌に親しむ」ことです。そこで、箏の演奏を児童に直接体験として視聴させるため、6月12日（木）に生田流さいたま鳳友会いくたりゅう ほうゆうかいの8名の皆様にボランティア講師としてお越しいたいただき、音楽科教諭が中心となって第3校時に体育館で4年生全員を対象とした「邦楽鑑賞会」を実施しました。

用意された和楽器の種類と数は、箏が12、十七絃じゅうしちげん・三絃（三味線）・尺八が各1でした。演奏されたのは、「さくらさくら」「SAKURA」「真珠伝説」「花は咲く」の4曲でした。最後の曲「花は咲く」では、児童も全員合唱で参加しました。曲と曲の合間には楽器の説明も行われ、「三味線には猫の皮ばかりではなく、犬のお腹の皮を張ったものもあります」「尺八の起源は中央アジアで、インドなどを経て日本に伝わりました」などの話に見学児童は興味深く聞き入っていました。

最後に児童から感想として、「1つ1つの和楽器の音はどれも独特で素敵だけど、それらの音が合わさると想像以上のもっと素敵な音になったのでびっくりしました」などと述べられました。

なお小職は、微力ながら講師探し、演奏依頼文の起案、事前打合せへの同席及び当日の講師接待等の業務に携わりました。和楽器に関する学習としては、6年の3学期に「和楽器の演奏場面の視聴をとおして、和楽器の音色を味わったり、和楽器の特徴を聴き取ったりする」ことを目標とした「日本の音楽を伝えよう」という題材がありますので、2月に再びさいたま鳳友会の皆様にご協力いただく予定を立てているところです。

◆現在活動されている団体のご紹介◆

サツマイモの苗植えと収穫体験～学校教育ファームを利用した活動

大砂土東小チャレンジスクール実行委員会 委員長 角田 政弘

土曜チャレンジスクール（以下 土チャレ）では体験活動の一環として、平成24年から見沼田んぼにある学校教育ファームを利用して、お父さんの会と合同でサツマイモの栽培をしています。ただし、土チャレの関わりは限定的で、苗植えと収穫（イモ掘り）の計2日です。それでも、畑仕事にほとんど無縁な児童が多い中であって、貴重な体験の場の提供になると考えています。

今年はまず、5月24日（土）の午前10時から総勢107名で、紅アズマの苗1,000本を、長さ25～30mの畝10本に苗間隔30cmで植えました。土チャレからの参加者数は56名（児童25、保護者25、スタッフ6）で、長さ25mの畝4本を分担し、ビニール製の農業用マルチに穴を開けながら計332本の苗を植えました。

今月2日（日）には、土チャレの64名（児童33、保護者19、スタッフ12）を含む総勢146名で収穫（イモ掘り）を行いました。今年は梅雨の期間が短く、高温・晴天の日が多かったためにサツマイモの生育が良く、長さ34cm・太さ10cmに及びジャンボイモもありました。

開始時刻の午前9時45分から約1時間半後、掘り出したサツマイモをファームの一角に集め、学校給食用の約50kgを確保してから、残りを児童を優先にしつつ参加者で分け合いました。参加児童のご家庭では、大学芋や天ぷら等にして舌鼓を打ったことでしょうか。給食では、同月11日（火）に「豆とサツマイモのかりんとう」として全校に振る舞われたそうです。

今年も太陽や土などの自然の恵みに感謝するとともに、農機で施肥や畝づくり等にご尽力くださった細沼武彦様及びツル返しや草取りに汗を流されたお父さんの会の皆様のご苦労にも深く敬意を表したところで。

ポップコーンを実演販売～「松の子まつり」で子どもたちと交流

青少年育成大砂土東地区会 会長 天野 雅裕

本会は、大砂土東小の学校応援団立ち上げの際に発起人の一人となった経緯がありますので、その後 年々応援団の構成メンバーが増え、学校や子どもたちの活動を盛り上げようという機運に高まりが見られることを大変喜ばしく思っています。

さて、大砂土東小では先月4日（土）に、PTA主催の第22回「松の子まつり」が開催されました。本会は、子どもたちや各参加団体とのコミュニケーションづくりの観点から今年も参画し、定番となっているポップコーンの製造・販売を行いました。価格は他団体のゲーム券やヨーヨー券とのバランスから、50円としました。私自身も幼少期はそうでしたが、ポップコーンは子どもたちには大人気で、今年は前売り券が約500枚も売れる盛況でした。この人気に因應するため、当日は午前8時過ぎから12名のスタッフがチームワークよろしく2台のポップコーン製造機をフル稼働させ、まつりの開始時刻前から周囲に芳しい香りを漂わせました。材料は、とうもろこし（爆裂種）、味付けのための塩バターフレーバー及び油（ポップコーン油）を用いました。作り方は、製造機の上部に取り付けられている蓋付きのフライパン様容器に 油→とうもろこし→塩 の順に入れて熱を加え、とうもろこしが弾けるのを待ちます。

子どもたちは、買って食べることを楽しむ一方、実演販売をする我々スタッフの動きにも気を止めてくれます。子どもたちから質問されることもあり、なかでもハニーバントムの類にしか馴染みのない彼らにとって、とうもろこし（爆裂種）が弾ける仕組みは相当ミステリアスなようです。なお、売上額から仕入額を差し引いた利益は、他団体と同様にPTAに託して「松の子鑑賞会」の実施等に役立ててもらっています。

付言ですが、ポップコーン製造機は本会の所有備品で、「松の子まつり」のほか、見沼小と島小のまつり行事や地域のイベント等でも活躍しています。

熱意をもって児童の安全誘導に努めています ～交通指導員さんを訪ねて

本校では登校班の交通安全を確保するために、3名の交通指導員さん（高島友行さん、横田洋子さん、森山常久さん）に学校の東側に隣接する道路上で毎朝、立哨指導をしていただいています。交通指導員さんには立哨指導のほかにも、入学式や卒業式にご臨席を賜ったり、学校評価のためのアンケートにご協力をいただいたりするなど、多方面にわたり学校を応援していただいています。

今般、3名の交通指導員さんを代表して、高島さんに交通指導員の活動等を伺いました。

——交通指導員はどのような活動をされるのですか？

主たる活動は、児童の登校時に通学路で安全誘導をすることです。また依頼があれば、自治会や学校で行われる交通安全教室のお手伝いもします。

——登校時の安全誘導については活動日数に決まりがありますか？

活動日数は、おおむね一月15日とされています。私の中では「授業のある日は児童の安全誘導に立つ」と決めていますので、たとえば先月（10月）の活動日数は21日を数えました。

——高島さんは、交通指導員となられてから今年で何年ですか？

現在はさいたま市長からの委嘱で交通指導員を務めていますが、平成5年4月に旧大宮市長から委嘱されて以来続けていますので、今年で通算22年目になります。

——交通指導員の活動を通して、もっとも思い出に残っていることは何ですか？

平成17年7月に5年生の道徳の授業でゲストティーチャーとして招かれたことですね。交通安全で一番大切なことは「待つ」というゆとりの心を持つことです——と話した記憶があります。後日、児童の皆さんからいただいたお礼状は、今でも最高の宝物として保管しています。

——どのような方が交通指導員になれるのですか？

資格要件として、①年齢25歳以上66歳以下の心身ともに健全な市内在住者②担当しようとする小学校の校長先生から推薦を得られる者③原付以上の運転免許証所有者——などが求められています。私自身の経験から申しますと、交通安全活動にボランティアとして熱意をもって取り組むことが大事だと思っています。

——交通指導員の任期はどのようになっていますか？

任期は2年です。ただし、引き続き校長先生からご推薦をいただければ再任されます。

——交通指導員で構成する連絡調整等のための会はありますか？

まず、市の交通防犯課が所掌する「代表指導員会議」があります。この会議は各区役所のくらし応援室長から選任された各区2名以内の交通指導員で構成され、年6回程度開かれます。私はここで副隊長を務めています。先月7日の第4回会議では、「冬の交通事故防止運動について」等を議題とした話し合いが行われました。

次に、上記とは別に、市レベルで「さいたま市交通指導員連絡会」が組織されており、各区にはそれぞれ当連絡会の支部があります。連絡会では、市が主催するイベントの会場周辺で交通整理等の協力をしたり、交通安全思想の一層の普及に向けた研修会や情報交換を行ったりしています。僭越ながら、私は市の連絡会の副会長と見沼区支部の支部長を仰せつかっています。

——最後に、本校の子どもたちへメッセージをお願いします。

登下校では交通ルールをしっかり守り、明るく元気で楽しい学校生活を送ってください。

（取材・編集 学校応援団事務局）



児童を校門へ誘導する交通指導員さん

～問い合わせ先～

【学校応援団事務局】大砂土東小学校 048-684-8003
学校地域連携コーディネーター